

双曲的割引が消費行動に与える影響の分析

2014年1月20日

殷婷（経済産業研究所）

暮石渉（国立社会保障人口問題研究所）

若林緑（東北大学大学院経済学研究科）

概要

本研究では、消費行動がライフサイクルモデル・恒常所得モデルから逸脱する理由として、自制心モデルに着目する。自制心の問題に直面している個人は、消費の平準化が達成できていないのに対し、自制心の問題に直面していない個人は、消費の平準化が達成できている、という仮説を、中国のマイクロデータを用いて検証する。用いるデータは、文部科学省の GCOE (Global Center of Excellence) プログラムの一環として実施されている大阪大学の「くらしの好みと満足度についてのアンケート」における中国都市パネル調査からのデータである。分析の結果、所得の変化は、消費の変化に影響しているが、その影響は自制心の問題に直面している場合、より強い影響を受けていることを 2009 年 - 2011 年の消費の変化で観察することができた。